

## 北浦史談会との交流20年

### 当会鈴木實前会長を功労表彰

## 記念式で新たな交流進展を誓う



功労者として北浦史談会平岡会長から表彰を受ける鈴木實前会長（写真左）

## 7月24日、記念交歓会を田沢湖で開催

北浦史談会と当滴石史談会の交歓会が始まってから今年で20年目となります。両会は第20回記念交歓会を7月24日（金）に仙北市田沢湖町の田沢湖芸術村「温泉館・ゆぼぼ」で開催しました。当会からは12名、北浦史談会からは14名の合計26名の会員が出席しました。雫石町教委からは米澤稔彦社会教育課長が教育長代理として出席し、参加者を激励してくださいました。

この日午前中は北浦の会の案内で、角館町の外町（とまち）を巡りました。参加者は見なれた武家屋敷とはまた違った寺院や庶民の生活ぶりが感じられる地域を興味深そうに見て回り、常光院では戊辰戦争の殉難者の墓碑に合掌していました。

### かつての両県交流団体「峠の会」について発表

午後の記念式では20回を記念して功労者表彰が行われ、当会の鈴木實前会長が受彰しました。鈴木前会長は10回記念交歓会をはさんで三期六年間会長として在職し、両会の交流発展と交歓会の充実に寄与された功績が高く評価されました。

式では当会の大村昭東会長が「国見峠千年の歴史の中、この機会に両史談会によって新たな交流発展を期そう。」とあいさつ。来賓の仙北市長（代理副市長）と同市議会議長も「さらなる交流の進展を期待する。」と祝辞を述べました。

記念事業の一つとして行われた「交流・思い出発表」で、当会の関敬一副会長がかつて存在した秋田・岩手両県民による「峠の会」の消長について、岩手県立図書館所蔵の同会機関誌などの古い資料をもとに調査した結果を発表しました。

「20回記念式のしおり」と「発表資料」は後日全会員に配付します。

# 11月6日に今年度第2回郷土史教室を開催

今年度2回目となる町教育委員会との共催事業「郷土史教室」を次により開催します。10月号の町教育広報にはすでに参加者募集のお知らせが載っています。会員の皆様へのお知らせが遅くなりましたこととお詫びしながら、下記によりお知らせします。

## 町内史跡めぐり

### 秋田街道に沿って発展

## “雫石地区の歴史と文化”を訪ねて

◆期 日 ; 平成27年11月6日(金) <雨天決行>

◆日程と見学場所 8:30 町役場前出発 — スタート「板橋」の地名由来

### 【七ツ森界限】

〔原種農場・一里塚・七ツ森払い下げ記念碑・生森地藏尊参詣道跡〕

### 【下町界限】

〔堀割・雫石八幡宮・舘坂・名子道・永昌寺〕

### 【雫石駅界限】

〔雫石営林署貯木場跡・雫石大火の防火祈念碑〕

— 昼食〔銀河 Sta. レストラン雫〕 —

### 【中町界限】

〔沢内街道・臨濟寺・廣養寺・代官所跡〕

### 【上町界限】

〔俳人諏訪歌随墓碑と金毘羅神社・雫石城への用水の入り口〕

### 【高前田界限】

〔蒼前堂前「大ぬかり」とその「う回路」・高前田刑場・一里塚〕

15:00 役場前帰着

◆募集人員 20人

◆参加料 1,200円(昼食・保険料など)

◆申込み先 町教育委員会社会教育課 [電話 692-6413] 電話・FAXで可。

◆申込み締め切り 10月29日(木)

## 報告 (1)



## 生森一里塚の草刈りと保護柵の補修作業を実施

### 長山街道分かれと高前田一里塚も

恒例の史跡等の草刈り奉仕活動を今年度も次のとおり実施しました。場所は、町内仁佐瀬地区の<長山街道分かれの道路指導標周辺>、<生森一里塚>、<高前田一里塚>の3カ所。今回は生森一里塚の保護柵の傷みが激しいことから、その補修作業も行いました。結果は次のとおりです。

【実績】 (作業奉仕会員名・敬称略)

- ・ 1回目 6月 6日(土) 仁佐瀬分岐・ 作業者〔高橋幸夫、坂井剛、大村、関〕
- ・ 2回目 6月 14日(土) 生森、高前田両一里塚草刈り・ 作業者〔大村、高橋秋夫、高橋登美男、細川 仁、関〕  
この日は、生森(南側)一里塚の柵の補修も行った。(北側柵は教委が腐朽のため撤去)
- ・ 3回目 8月 10日(月) 仁佐瀬分岐草刈りのみ  
作業者〔1名〕
- ・ 4回目 9月 14日(月) 仁佐瀬分岐草刈り・ 作業者〔草刈1・乾燥後草集め1名〕



報 告 (2)

6月23日・第1回郷土史教室「一関地方の歴史を訪ねて」

町の教育委員会との共催事業として実施しました。この企画は募集人員20人に対して、募集開始直後から申し込みが殺到し締め切りまでに36人に達するという大変な盛況となりました。教育員会では急きょ15人乗りのバスを1台追加して会員10名と一般町民26名全員が参加できるよう対応して実施しました。

見学した場所は――

- ①骨寺村荘園遺跡・ ②一関市博物館「舞草刀」・
- ③長昌寺「時の太鼓」 ④「みちのくあじさい園」

の4カ所で、昼食は博物館近くの道の駅「巖美溪」で餅文化の本場らしく餅ご膳を味わっていただきました。この日はまさに<一関の伝統文化>を堪能した教室となりました。



このうち骨寺村荘園遺跡では、一関市役所同遺跡担当ガイドが説明に当たってくれました。参加者は初夏の暑い日ざしの中、遺跡内の水田のあぜ道を歩いて800年前の往時を偲んでいました。また一関博物館では、同市舞川地区が発祥で日本刀の原点ともされる「舞草刀(もくさとう)」についての説明に耳を傾けました。さらに一関市といえば「過ぎたるもの二つあり」といわれる同市自慢の二つのうちの一つである「田村藩の時の太鼓」を同

市内の寺院「長昌寺」で見学。参加者の一人が実際に時の太鼓を打たせてもらうなど体験を伴った楽しい研修となりました。【参考までに、“一関に過ぎたるもの”のもう一つは、江戸時代の藩医 建部清庵のこと。飢饉への備えを書いた書籍2冊を著している。】

県内最大級といわれる「みちのくあじさい園」は、全面的な開花までまだ少し早かったのですが特別に入園させていただきました。それでも杉林の中に咲くあじさいの紫や白の花はさすがに美しく、参加者は思い思いに写真を撮るなど楽しんでいました。

## 報 告 (3)

### 6 月歴史サロン「雫石の年中行事と行事食」を開催

6月17日(水)午後から中央公民館で開催。会員11名が出席しました。以下、その内容を 大坪正人会員 がリポートします。



この日のゲストスピーカーは雫石町農業指導センター専門指導員の桐山桂子さんでした。平成21年に同センターが発行した『しずくいしの行事と行事食』をテキストにして、お茶受けには「草餅」をいただきながらの和やかな会(200円会費)となりました。

かつて雫石における家庭や地域の一年の行事には「行事食」がつきものでした。桐山さんは「これらの行事やその時に作る料理には自然に感謝し、神仏を敬う気持ちが込められ、ずっと地域に息づいてきたのです。」と語りました。

テキストをもとに桐山さんが「正月」から「歳取り」まで、その時々どのような「料理」を「食べ」、どのように「祈り」、どのような「行事」をしたのか説明すると、出席者は「えっ、そうだったの!」と驚きの声を上げたり、「そうだ、そうだ」とうなづいたりしていました。また出席者からは近隣の町村の例なども話され、皆さんは雫石のものと比べながら興味深そうに聞き入っていました。出席者の中で若い方の私にとって「ふきどり餅」、「舅礼(しゅうとれい)の鏡餅」、「4月8日(しがつようか)」、「七日日(なぬかび)」、「成木責め(なりきぜめ)」などの言葉は、これまで聞いたことがあっても意味がよくわからないものも多かったのですが、今回新鮮な思いで聞きました。「旬の食材」を料理に使う意味やささまざまな調理の工夫も知ることができました。質素な食事に見えても健康的に理にかなった料理が多いことに驚きました。

皆さんのやり取りを聞いていて私は、我々は目に見えない多様な神仏、先祖の霊に囲まれ、生活の場での太子信仰、労働の場では山神などの樹木霊信仰が芽生え、その中で地域社会との向き合い方などが成立してきたんだな…などと、あれこれ考えていました。この日の歴史サロンは「伝える」こと、「繋いでいく」ことの大切さを学ぶよい機会となりました。

テキストに使われた『しずくいしの行事と行事食』は、地域に入って一年以上の取材を重ねたもので、きれいな写真に分かりやすい説明が付いており、まさに往時を語る一級資料です。

手前みそですが、私の勤務する町立図書館にもあります。ぜひお手にとってご覧ください。

以上3つの報告は、10月15日(木)に開催した今年度第2回役員会で了承された事項の中から紹介しました。同日了承されたこのほかの「戸沢サミット in 仙北」の参加結果報告・決算ほかは11月下旬発行予定の次号に掲載します。お待ちください。

#### 【新しい会員紹介・7月13日付】

会員番号55 加藤 完 氏(雫石町柿木・工務店経営)

[よろしくお願ひいたします。]

年会費納入のご案内…… 口座振込みの際は下記口座をお願いいたします。

※岩手銀行雫石支店(店番054)普通 1178246 雫石史談会 会長 大村昭東

**あとがき**……6月1日以来4カ月半ぶりに会報を発行します。長のご無沙汰、平にご容赦のほどお願いいたします。この間に夏が終わり大地は私達に秋の実りを届け、冬への準備に入りました。<御山に雪が三度来ると里にも降る>という俚諺があります。今年は時候が一週間程早いようです。雪の降る前にあれもこれもと考へながらつい後手後手に回る癖を返上しようと思うのですが…。今号はお知らせばかりの中身ですがご笑覧のほどを。(S)